



集中コース秋の部開催報告

『元気な森にするために』

例年よりも遅い秋がようやく伊那谷に訪れてきた十一月の初旬。遠くは宮城や兵庫から、総勢十六名の方々が参加してくれた集中コース秋の部。

いきなりのチェーンソーを使った玉切りに始まり、プロット調査での太さと高さの測樹。データ整理をして、地位指数と相対幹距比と林分形状比で、健康診断・

施業計画。樹の傾きと枝張りを見て、受け口・追い口・つるの伐倒。枝を払って玉切りしたら、ウインチで、あるいは人力で、寄せて集めて簡単集材。…と、三日間はあつという間でしたが、一連の流れのなかでポイントを押んでいただけでしょか。森林塾は、「何か」を提供できたで

しょうか。皆様には、「何か」を持って帰って頂けたでしょうか。忘れてしまったこと、分からなくなつたこと、こんな山はどうしましよう…など何でもお気軽にご連絡ください。そして、これからも何らかの形でお付き合いをさせて頂ければ幸いです。



つるを見ながら、追い口伐り



こずえをねらって・・・



直径巻尺は水平に

しっかりとした体勢で！

今回の内容
集中コース 秋の部
11月3～5日
(木)土

3日(木)
9時

島崎先生の山小屋に集合。事務局の挨拶と日程説明。早川講師の林業や森林の現況についてや森林整備の必要性の講義。塾生の方々、インストラクターの方々の自己紹介。班分け。また、「おい、山へ行こつよ」の紹介をさせて頂く。

9時40分
休憩後、小屋の前で体操をしてから現場へ向

ば幸いです。
立冬まじかの肌寒い季節に、しかも慣れない山作業、お疲れ様でした。

10時
各班にてチェーンソーの構造や始動方法、取扱時の注意事項の説明を受けた後、

10時20分
丸太伐りを行う。下刃(腹刃)で伐り下げ、上刃(背刃)で伐り上げ、そして回し伐り。橋渡し材の伐り方や桎に積まれた丸太の造材。玉切られた丸太を立木に見立てて、受け口・追い口の練習を行った班も。

12時20分
小屋へ戻って昼食。

13時20分
森林調査についての早川講師の講義。その目的や測樹の方法、指標について。

13時50分
現場のヒノキ林へ移動し



動滑車でこんな太い木も、エイヤッ！！

15 時
 測樹開始。10 m x 10 m のプロット調査。その中の全ての木の太さを直径巻尺と輪尺で測り、樹高は選抜した数本について、ワイゼやブルーメライズといった測高器で、あるいは釣り竿やポールや輪尺を用いて測定。林齢は、切り株の年輪を数えて。

17 時 40 分
 講師講評後、終了。

18 時 30 分
 手際よく準備が進み、交流会開始。恒例のバーベキューにビールと日本酒。用意した食材は、瞬く間に消費され、追加購入に走る。

4 日 (金)
8 時 30 分
 島崎先生の山小屋に集合。日程説明のあと、早川講師から指標の説明や施業方針の策定について講義を受ける。また、ますみヶ丘の全体構想についても概要を説明して頂く。

9 時 10 分
 休憩後、施業方針の立案を各班にて。10 年後あるいは 25 年後に相対幹距比 17 % とすると... 50 年生時に 20 % とすると... 針広混交林へと誘導したいので、現在 24 % にして向こ



輪尺で樹高測定もできます

10 時 10 分
 各班の方針を発表。講師講評。その後、現場へ行ってプロット内の保残木をマーキングする。

11 時 50 分
 小屋で昼食。

12 時 45 分
 分乗して現場へ。着後、早川講師による伐倒実演。枝張り・樹の傾きからの伐倒方向判断や受け口・つる・追い口といった伐倒方法などの説明を受ける。

13 時 40 分
 各班では、さらにチェーンソーのバランス伐倒にあっての立ち位置の説明を受けて、伐倒開始。樹の傾きと集材方向を考慮した伐倒が続く。各班とも太めのアカマツの伐倒となり、かかり木の処理に四苦八苦。



メンテの最後に、オイルの確認

16 時 30 分
 伐倒を終了し、小屋へ戻る。

16 時 50 分
 講師講評のあと終了、解散。

5 日 (土)
8 時 40 分
 島崎先生の山小屋へ集合。体操・日程説明の後、今日も分乗で現場へ向かう。

9 時
 昨日に続いて伐倒・枝払い・造材。フルスロツルの枝払い音が響き、玉切られた材がそこかしこに。

11 時
 寄せて集めて簡単ウインチ「ひっぱりだこ」登場。赤い帽子に玉切り材を入れて集めます。二班毎に合同で。

12 時 15 分
 現場にて昼食。昼休みに昨日できなかったチェーンソーのメンテナンスを

行う。エアクリナーの掃除の時は、チョーク状態で。カバーをはずして、パーとソーチーンを分離。掃除をして組み立てたら目立てです。4ミリの丸ヤスリで30度。まっすぐに一方通行。すべての刃を同じ回数研磨する。最後にエンジンをかけてオイルが適量か、みてみます。

13時15分

作業再開 ひっぱりだこで集材をする班、伐倒をする班、動滑車を駆使してロープでの人力集材をする班と、それぞれの作業で間伐が進み、丸太が集められてゆく。

14時30分

作業を終了し、小屋へ。

15時

講師総括の後、終了、解散。お疲れ様でした。

参加者/井上さん、榎さん、大村さん、熊木さん、佐川さん、ご夫妻、田上さん、田口さん、丹治さん、中島さん、仲盛さん、日暮さん、平田さん、藤原さん、松本さん、村瀬さん

講師/早川講師
スタッフ/小泉 後藤、平林 藤原、坂野

次回以降の予定

第十五・十六回
12月2・3日(金・土)
炭焼き・復習

移動式炭化炉を使って、できればドラム缶でも炭焼きをしてみます。材の仕込み、火入れの後は火の番です。その間は、希望者で少し早い忘年会。幹事さん募集中です。可能な方は火の番をしつつ小屋でお付き合ってください。翌日は、炭出しの後、保科先生の山林見学を予定しています。なお、炭出し時はマスク・タオルなどが必要で、希望者は炭をお持ち帰り頂けますので、米袋など持参ください。8時30分、鳥崎先生の山小屋に集合です。

第十七回

3月4日(土)

きのこ菌打ち

早いもので平成17年度の最終回になります。ナラなどの原木にシイタケやナメコを種駒を打ち込む方法と菌を塗る方法で植菌して見ます。鳥崎先生の小屋に8時30分集合です。この時期、積雪や凍結など道路状況にご注意願います。



やま・もり 豆知識

吉野林業地視察研修

インストラクターの川島さんが会長をお務めになる上伊那林業士会と、保科先生が前会長を務められました上伊那林業経営者協会の合同視察研修に便乗させてもらい、KOA森林塾事務局の面々は名にし負う奈良県の吉野林業地へ行ってきました。

吉野林業地とは奈良時代に役の行者(えんのぎょうじゃ)が修験道の霊山として開いた大峰山系と、年間雨量が四千ミリに達する大台ヶ原を主峰とする台高山脈に挟まれた川上村、東吉野村、黒滝村の三村で構成される吉野川上流の地域を指します。足利時代末期に既に造林が行われていた記録があり、現存する日本最古の人工林も見学してきました。

このスギとヒノキの人工林の中で最も古いのは樹齢約三百年のスギで、なかで最大のは胸高直径百七十二cm、高さが約五十三mもあるそうです。この大スギは晩年の徳川家康と同じ空気を吸い、そして今ひんやりとした森の中で二十一世紀の世の中を静かに眺めています。

吉野林業の特徴は密植、多間伐、長伐期といわれています。スギは八千〜一万二千本(ha当たり)、ヒノキなら七千〜八千本(ha)という密な植付けで、植栽後三年ほどすると樹冠が閉鎖し、下草もほとんど生えなくなるそうです。そして保育のための間伐は三〜五年に一回、四十年を過ぎると利用間伐となり七〜十年に一回の繰り返しです。ここは元来、酒樽を初めとする樽丸太の生産を主目的として



て発生した林業で、年輪巾が狭く(1cmに八つ以上)均一なものを目指していたために伐期は長く、百年をひとつのめどとしていたそうです。実際、宿で使っている、吉野杉の間伐材の端材で作った割り箸は、一つの面に少なくとも二本の年輪が通っているとのこと。

江戸時代後半から、貧しさのために地元民は次々と山林を手放し、村外者への山林の集中がすすみました。その山林を維持管理するのは地元山守さんで、村外山主の山林を数百haから多い人で千haほど管理委託を受け、保育や素材生産を担っています。山守さんは世襲であり、長期的視点を持って持続可能な森林経営を行いつつ吉野の優良財生産を支えています。

二日間私たちを案内してくれた民辻善博さんも六百haの山林を管理する山守さんで、職人としての自信と頑固さ、そして親方としての懐の広さを併せ持つ、じつに気持ちのよい方でした。二百二十年物のヒノキの輪切りや枝、スギの根張りなどをお土産にくださいました。

とまれ、現代林業を包む構造的な苦しさは、多くの林業地のお手本となったこの吉野林業地をも例外扱いをしてくれません。間伐などの手入れが滞り始めている山林も少しずつ見受けられるようになったそうです。でも修験者が今も歩く吉野の山々には町の人々の時間とは全く別の時間が流れているように思いました。

リレー通信

答えは現場に落ちている
丹治 文孝



皆さんはじめまして。秋期の集中コースに参加させて頂いた丹治と申します。

私は今年の四月から、社有山林の管理をしています。担当する西日本社有林の面積はおよそ二千五百ha弱で、殆どは兵庫県にあります。中国、四国、九州の合計九箇所に点在しています。間伐等の実作業は、森林組合や民間業者に委託しています。社有林には九十歳級のスギ・ヒノキの人工林が多く、その殆どは間伐が大きく遅れています。ですから、当面は、ともかく間伐を推進す



作業の方と一緒に山に入ると、知識の豊富さは勿論、観察力の細やかさ、評価の正確さに感心します。それは数値化や言葉での説明が難しい、大変感覚的なものです。

どんな仕事も、最後はプロフェッショナルのもつ“勘”です。そしてそれを身に付けるには、感性を研ぎ澄ます必要が有ると思っております。林業は特にそうだと思います。森林の特徴として、一つ目に、成長に影響を及ぼす要因が非常に多く複雑で、理論のみでは結果を予測しきれない事、二つ目に、主要な要因が、土壌や気候等、地域による差が大きい事が挙げられると思います。それで、理屈のみで考えを巡らせても、枝葉が多くて実りが少ないものになるでしょうし、一箇所成功した手法をただ水平展開するのでは、当然条件が異なるので成功はおぼつかない、事になります。

最近一番心に残っている言葉があります。「俺の足跡が森の肥やしになる」。三重県 速水林業の前社長、速水勉氏がよく使われるそうです。管理者が現場を歩く事に優る肥料は有りません。私の仕事は、西日本部分の社有林二千五百haの再生です。その為に、研ぎ澄ました感性を持って二千五百haの森林を歩き回ろうと思っております。そして感性を研ぎ澄ます為、来年のKOA森林塾通年コースには、是非参加させて頂きたい、と考えています。と、通年コース参加の為、まあこんな説明で上司を説得しようと考えているところです。



投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: sh-sakano@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062 (開催日)
URL http://www.koanet.co.jp

る事が急務です。この仕事に携わる迄は、スギとヒノキの区別が出来ないくらいでしたから、自分なりに勉強しているのですが、知識も経験も全然足りないと思感する日々です。まずは間伐についてもっと知らない、と思っていた私にとって、KOA森林塾の集中コースはうってつけの内容でした。毎木調査から間伐方針策定・選木までの流れと、間伐・集材迄を一通り体験できた事で、今まで細切れで曖昧だった知識を、少なくとも基礎は一つの流れとして習得できたと思います。今は、以前に取った毎木調査結果を手直しして評価し、長期の施業方針を立ててみたり、と教わった事の復習をしています。

但し、私は、判断は数値でするのではなく、数値化出来ない、微妙な、感覚的なところを感じ取る事こそ大事と考えています。作業者の方と一緒に山に入ると、知識の豊富さは勿論、観察力の細やかさ、評価の正確さに感心します。それは数値化や言葉での説明が難しい、大変感覚的なものです。

では、一番“勘”を身につけているのは、一番現場と接している実業者です。実業者は、現場を歩き、木を伐る事で、毎日の様に五感を使っているのを感じています。実業者をする事で、森林を深く知る事が出来、より深く間伐作業を理解できます。だから、今回チェーンソー伐採と集材を体験できた事はとても良い経験だったと思うし、出来れば続けて行きたいと思っております。測定や、実作業や、観察をする事で、もっと森林を深く知りたい、と思うのです。

紅葉がやつと里まで降りてきました。初雪の便りも聞こえ、山は冬仕度を始めたようです。十月の終わりに友人と乗鞍へ行って来ました。爽やかな秋晴れの空の下、道沿いの大きな桂の木が黄色く色づく、陽の光に透けた葉がはらはらと舞い落ち、風が桂の紅葉する時に出す甘い香りをはこんで来ました。青い空をバックに乗鞍岳は白く雪化粧をし、標高の低い山は紅葉で、友人と私は歓声をあげて喜んでしまいました。高原にはノバラの赤い実がそこかしこに実り、まつむし草が行く季節をおしむかのように花を咲かせ、かえでは美しい朱赤に染まり、つりばながかわいらしい赤い実をつけていました。

自然が見せてくれる風景と言つのは、人の想像を遥かに超える美しさを見せてくれるものだと思っております。帰る際、十年前の記憶を辿りながら訪れたつりばなの木に逢つてきました。すでに盛りを終えたその木には、数個の実が付いていたのですが、今も健在で在る事を確認し、ほっとしながら、又いつか綺麗な紅葉とかわいらしい赤い実をたくさん付けたその姿に逢いに行きたいと思っております

コラム

おわりに

「鷹」